

➤ 18日 火曜

ヨハネ



13:21 イエスは、これらのことを話されたとき、心が騒いだ。そして証しされた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ります。」

13:22 弟子たちは、だれのことを言われたのか分からず当惑し、互いに顔を見合わせていた。

13:23 弟子の一人がイエスの胸のところで横になっていた。イエスが愛しておられた弟子である。

13:24 そこで、シモン・ペテロは彼に、だれのことを言われたのか尋ねるように合図した。

13:25 その弟子はイエスの胸元に寄りかかったまま、イエスに言った。「主よ、それはだれのことですか。」

13:26 イエスは答えられた。「わたしがパン切れを浸して与える者が、その人です。」それからイエスはパン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダに与えられた。

13:27 ユダがパン切れを受け取ると、そのとき、サタンが彼に入った。すると、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、すぐしなさい。」

13:28 席に着いていた者で、なぜイエスがユダにそう言われたのか、分かった者はだれもいなかった。

13:29 ある者たちは、ユダが金入れを持っていたので、「祭りのために必要な物を買いなさい」とか、貧しい人々に何か施しをするようにとか、イエスが言われたのだと思っていた。

13:30 ユダはパン切れを受けると、すぐに出

て行った。時は夜であった。

イエス様はユダの裏切りを見抜いておられましたが、それを阻止せず実行させました。弟子たちにそれを知られないように、彼を行かせたのです。もしも弟子たちが知ったら、ユダを容赦しなかったでしょう。傷害事件になったとしても、阻止したでしょう。

イエス様は全能の神であり絶対の力を持ったかたですが、力で世を動かそうとはなさらなかったのです。ねじ伏せられた者は敵対心を持つようになります。そこには愛も平安も一致もないのです。

クリスチャンの信仰的解決はそこにあります。ことばの力、お金の力、知識の力、威圧の力、律法の力、多数派の力など様々な力がありますが、神様のみこころはただ愛によって人を変えることなのです。

イエス様は命をかけてそれをなさいました。私たちがそれに倣うとき、主は喜んでみわざを表してくださると信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

